
色鉛筆の削りかす通り

夕和草子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色鉛筆の削りかす通り

【Nコード】

N9442N

【作者名】

夕和草子

【あらすじ】

ある日、少年が通りを歩いていると、頭の上に空き缶がおちてきました。

柔らかいメロディーが、色鉛筆の削りかす通りかす通りで静かに流れていた。僕がこの世界に生をうけてから、一度も夜を明かしたことの無い常夜の通りだ。

にじ色に焼かれた銅の街灯が、石畳に散らばる色とりどりの色鉛筆のかすを照らし、宝石のようにきらきらと輝かせている。その道をふちどるように並ぶ店の数々からは淡い燈色の光がもれ、時折こおばしい香りがただよってきた。

上を見上げれば、店の煙突からもくもくと出た白い煙におおわれ、それより先はいつも見えない。もし煙が晴れたのなら、紫がかつた闇に浮かぶ星々を見ることができただろう。

僕がこの通りへ来るとき、行き先はいつも決まっている。

はげた皮の薄茶色のショルダーバッグをさげて、軽やかにその場所へと向かった。

人はまばらで、何人かでかたまって歩く者がいれば、僕とおなじように一人でのんびりと歩いている者もいる。

数人の子どもたちが無邪気な笑い声をあげながら横を走りぬけていった。

後ろからは金属のかたまりがゴロゴロと音をたてながら子どもたちを追いかけ、その様子が妙に可笑しくて吹き出すのをこらえる。

そうしていると、とつぜん頭上から何かが落ちてきて、みごとに頭にぶつかった。

「いてて…」

頭をさすり、ショルダーバッグをよいしょと持ち直すと、落ちたものを確認する。

「いってえな」

そう、つつぱった声で毒づいたのは、真ん中がへこんで曲がって

いる空き缶だった。

僕はしゃがみこむと、「あー…えーと…」としどろもどろに話しかけ、ついには「すみません」と頭を下げた。

空き缶は、怪訝そうにこつちを見ると、穴の開いたところから黒い液体をペツとはきだした。

もちろん顔がついているわけではないけれど、なんとなくこいつの気持ちはわかるんだ。

この世界では、みんながそう…。

「気の弱エ、兄ちゃんだな。俺の中にあつた黒い液体…：…どういうものか知ってるか？」

ずいぶん挑戦的な口調で話しかけてくるんだな、と思った。

まさか、毒薬とか爆薬とかそんなものか。僕は黒い液体をポーゼンと見つめ、困り果てる。こつちのほうはどう処理をすればよいのか。

「これはな、コーラってんだ。地球産だけ…：…」

地球、か。ずいぶんと懐かしい名前を聞いたもんだな。

「地球は…：…いま、どんな感じ」

「まずまずでんなー」

「…：…そっか」

空き缶は僕の反応が不服だったのか、黒い液体をとばしてきた。

「そついうとつきゃなあ、そつでつかーって答えんだよ！」

「わわっ、やめてよ。たいして変わらないじゃないか」

「ぜんぜんちげー！ちつと、ほら、テンションが上がるだろうがよ

…：…」

「うーん…：…」

「そついうときゃ、納得できなくても頷いとくんだ！」

「あつ、はい！すみません」

あ、また謝ってしまった。やっぱりなんだか納得できずに、首を傾けている僕を見上げ、空き缶が「ところでよお」と言った。

「どこに行くんだ？」

「永遠の本屋さん」

「あー、あそこか」

「へえ。知ってるんだ」

「当然だ。あれだろ？本がお盆にのせられて運ばれてくるところだろ？」

「そうそう」

僕が笑つと、空き缶は「俺も行く！」と飛び跳ねた。

「えっ…本読むの？君が？」

「失礼なやろうだな。もちろん美人な女店員さん目当てだ」

「……ははは」

僕らはのんびりと歩きだす。

柔らかいメロディーが、静かに流れている。にじ色に焼かれた銅の街灯が、石畳に散らばる色とりどりの色鉛筆のかすを照らし、宝石のようにきらきらと輝かせていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9442n/>

色鉛筆の削りかす通り

2010年10月9日17時29分発行